

【実践報告】

教育実習Ⅶ（小）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 村 上 典 章

1 はじめに

教育実習Ⅶは、次年度の小学校教員免許取得上必修の教育実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に先駆けて、小学校教育の実際にふれ教職への自覚を高めることを目的として実施する。その目標は、学校と教員の仕事、子ども、基本的な指導技術についての理解を深め、教育研究課題と自己を発見し、教職に就くことへの自覚や使命感を高めることである。この実習には、実習体験を通して自己の適性を判断する、多様な文章の添削指導により文章表現力を高める、学習会を通して教育研究の視点や協議のスキルを身につける、宿所での共同生活やグループワークを通して主体性、協同性を育て自己の課題に対する早期取り組みの契機とする等の点で意義がある。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・実習の意義、目的、心構え等を再確認する。・3年生からの紹介を聞き、実習校を選択、決定する。・実習校毎に実習長を中心とする役割分担を行い、実習校、宿所等に関する情報収集、事前学修を行い、パンフレットを作成し、教育委員会、実習校、宿所へ送付する。・文章講座「自己紹介の書き方」、「目標の書き方」、「観察・記録のしかた」、「礼状の書き方」*幼小合同を参考に、添削指導を受けながら完成する。・「子どもとの関わり方について」、「特別支援教育について」等の講義を受け、理解を深める。
観察実習 5日間 (学外) *宿所へは 前日（日曜 日）移動	6月第3週	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は実習校により計画される。内容の例として、①校長、教頭、教務主任、生徒指導主担当者、養護教諭講話、②全学年の授業観察、③スポーツテスト、環境整備作業（教室掲示、プール掃除）等の補助、④学級活動（レクリエーション）の計画、指導等が挙げられる。・宿所では、宿泊担当教員の添削指導を受けながら教育実習日誌等の記録をつけ、学修会での討議を通して学んだことを客観化、共有化しながら理解を深める。また、生活面で分担された役割を果たす。
事後学修 (学内)	6月～7月 報告会は 7/24,7/25 に実施	<ul style="list-style-type: none">・実習校の全教職員、教育委員会教育長、宿所管理人、その他必要に応じて礼状を作成、送付する。・各自の実習を振り返り、報告会レジュメと報告書を作成し、報告書は教育委員会、実習校へ送付する。・各実習校の実習長、副実習長による実行委員会を中心に報告会を実施する。報告会では、個人の成果と課題、グループ毎のテーマについて協議し、学んだこと等について発表する。

3 活動の概要

(1) 実習校並びに宿所

実習校	人数	宿所
山県郡北広島町立新庄小学校	10名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立大朝小学校	10名	グリーンヒル大朝
山県郡北広島町立豊平小学校	18名	どんぐり荘
安芸高田市立船佐小学校	6名	エコミュージアム川根
安芸高田市立来原小学校	6名	エコミュージアム川根
安芸高田市立川根小学校	8名	エコミュージアム川根
呉市立下蒲刈小学校	18名	松寿苑

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告書より抜粋）

- ・私は小学校3年生の子どもたちを観察していたが、自分の頃と比べて非常にものわかりもよく、活発で学習に熱心であるという印象を受けた。初めて教育の現場で子どもたちの生の発言を聞き、私では到底思いつかないような発想の豊かさと柔軟な考え方には、感心を超え羨ましくさえ思った。この子たちが私と変わらない年齢になったとき、どんな知識を得てどのような夢をもちどんな風に成長していくのか、子どもたちの成長が楽しみになるとともに、その子どもたちになりたいと思う世界へ導いていけるよう指導方法を考えなければいけないと思った。
- ・教師が、やりがいや生きがい、楽しいという気持ちをもつことで、児童にも自然に肯定的な気持ちが生まれることを意識したい。ただ、教師が注意すべきことは、学級を教師色に染めないことだと思った。自分の気持ちを押しつけたり、全て教師が手伝ったりするのではなく、児童が自分たちで解決することを「待つ」ということも、教師の大切な仕事だと思った。
- ・私たちは実習生であったけれど、子どもたちからすれば「先生」だ。私は今まで「先生」という立場に立ったことがなかったため、自分はこれから教師になるのだという意識付けのきっかけとなった。今回の実習を通してわかった、コミュニケーション能力をつけること、正しい言葉遣いやマナーを常に意識しておくことなどの自分の課題を一つずつ解決していきたい。実際に教育現場に立つことで、より教師になりたいという思いが強くなったので、精一杯頑張っていきたい。

4 成果と課題

今年度から、従来実習長だけで構成していた実行委員会のメンバーに副実習長を加えた。その結果、実習校毎のグループワークも事後報告会への取り組みも円滑に進めることができた。また、全体的に学生の意識が高く、報告書を見る限り、ほとんどの学生が目標を達成していた。さらに、これまでに比類のない高い評価を得た実習校があった。

今年度の大きな課題としては、感染症により実習を中止した2名をはじめ実習前後に体調を崩した学生が出たことと二日間開催した事後報告会に他学科、他学年、他のコースの学生が参加できなかったことが挙げられる。この背景には、実習前に十分な健康管理ができなかったことや台風による休校で、事後報告会が金曜日、土曜日と連日開催になったこともあると考える。学生の意識を高めるとともに参加するための環境を整えていきたい。